

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 2 部門第 4 区分
【発行日】 令和 6 年 9 月 2 日 (2024.9.2)

【国際公開番号】 WO2023/210213
【出願番号】 特願 2024-517901 (P2024-517901)

【国際特許分類】

B 3 2 B 27/32 (2006.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

B 3 2 B 27/28 (2006.01)

B 6 5 D 65/40 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 27/32 E

B 3 2 B 27/00 A

B 3 2 B 27/28 1 0 2

B 6 5 D 65/40 D

【手続補正書】

【提出日】 令和 6 年 6 月 19 日 (2024.6.19)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】 特許請求の範囲

【補正対象項目名】 全文

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ポリオレフィン系樹脂を含む外表面層 (a)、ガスバリア性樹脂を含む中間層 (b)、及びポリオレフィン系樹脂を含む内表面層 (c) の少なくとも 3 層からなる多層フィルムであって、

前記外表面層 (a) 及び／又は前記内表面層 (c) 中のポリオレフィン系樹脂が、超低密度ポリエチレン、直鎖状低密度ポリエチレン、プロピレン-エチレン共重合体、プロピレン-エチレン-ブテン-1 共重合体、エチレン-酢酸ビニル共重合体、エチレン-アクリル酸共重合体、エチレン-メタクリル酸共重合体、エチレン-アクリル酸メチル共重合体、エチレン-アクリル酸エチル共重合体、及びエチレン-アクリル酸ブチル共重合体からなる群から選択される少なくとも 1 種と、環状オレフィンコポリマーとを含み、

前記多層フィルムの少なくとも 1 層に環状オレフィンコポリマーを含み、

前記多層フィルムの全質量を 100 質量%とした時に、

前記多層フィルムに占める前記ポリオレフィン系樹脂の質量の割合が 80 質量%以上であり、かつ、

前記多層フィルムに占める前記環状オレフィンコポリマーの質量の割合が 15 質量%以上である熱収縮性多層フィルム。

【請求項 2】

前記外表面層 (a) 及び／又は前記内表面層 (c) 中のポリオレフィン系樹脂が、超低密度ポリエチレン及び直鎖状低密度ポリエチレンからなる群から選択される少なくとも 1 種と、環状オレフィンコポリマーとを含む請求項 1 に記載の熱収縮性多層フィルム。

【請求項 3】

前記環状オレフィンコポリマーが、ガラス転移温度が 50～68℃である環状オレフィンコポリマーと、ガラス転移温度が -10～20℃である環状オレフィンコポリマーとの何れか又は両方を含む請求項 2 に記載の熱収縮性多層フィルム。

【請求項 4】

10

20

30

40

50

前記中間層（b）のガスバリア性樹脂が、エチレン－酢酸ビニル共重合体部分ケン化物、及び、グリコール酸（共）重合体樹脂からなる群から選択される少なくとも１種を含む請求項１に記載の熱収縮性多層フィルム。

【請求項５】

横方向（ＴＤ）の引張弾性率が２００～６００ＭＰａである請求項１に記載の熱収縮性多層フィルム。

【請求項６】

請求項１～４のいずれか１項に記載の熱収縮性多層フィルムの製造方法であって、
ＴＤ方向延伸直前部の樹脂の表面温度が７５～９０℃であり、
インフレーションバブルの下部ショルダー形成部における樹脂の表面温度が、前記ＴＤ
方向延伸直前部における樹脂の表面温度よりも５～３０℃の範囲で低下する熱収縮性多層
フィルムの製造方法。

10

20

30

40

50